

## インパクトコンソーシアム 地域・実践分科会（第4回） 議論のポイント

【日時】令和8年3月13日（金）13:30～15:00

【場所】オンライン開催

【次第】

1. 第2期の振り返り
2. 本日のディスカッションのポイント
3. 意見交換
4. 閉会

【第2期の振り返り】

- 本年度は資金循環を通じた地域インパクト創出に焦点を当て、産学官金の連携のもと、対話と実践を重ねてきた。議論のなかで資金供給の課題を整理し、ブレンデッドファイナンスや成長段階に応じた手法の組み合わせ、関係主体が連携することの重要性を確認した。さらに沖縄県でのフィールドワークを通じて、地域で構築されたエコシステムの有効性を実感した。（金融トラック 宜保座長）

【意見交換】

<第2期成果物（事例集）について>

地域・実践分科会の座長・副座長・ディスカッションメンバーにより議論

- （地域金融機関の）本部企画部門から営業店までが一体となり、インパクトファイナンスの機会を捉える意識醸成が重要と考える。現場単独での組成が難しい中、企画部門が伴走して浸透を図る必要がある。事例集については、各層が必要な情報にアクセス可能な構成で活用できるツールとなることを期待する。行内での浸透に向けては、行内メディアやマネジメント層が対象の研修等を活用することも検討する。（株式会社肥後銀行 宮本メンバー）
- （地域金融機関の）経営層から現場まで各層が活用できる実用的な構成が重要と考える。特にリスクとリターンの可視化においては、具体的なリターンやそれを実現する行動まで示す必要があると考える。事例は対話の起点となり、現場担当者にとって次の道筋を示す有効な材料になると考える。仲間づくりを促し、各機関が融資制度やファイナンスの在り方を主体的に検討する契機となることを期待する。（京都信用金庫 石井メンバー）
- 事例集は、具体的な行動へ繋がる内容とすることが重要と考える。リスクの取り方に踏み込むためのヒントとして他行事例の活用が有効であり、主な読み手はやはり地域金融機関が一番大きいと思う。（株式会社 Zebras and Company 田淵メンバー）
- 地域金融機関、特に地方銀行等が中核となり、PMO・FAのような役割を担う重要性が

高まっている。プロジェクトの性格に応じたりリスク・リターンの整理やブレンデッドファイナンス活用の視点が不可欠であり、企画部門の役割分担を踏まえた現場支援の在り方を明確化する必要があると考える。また、インパクト創出に重要なロジックモデルは、関係者間の合意形成の基盤となるため、地域事業計画として位置付ける必要がある。自治体だけでなく関係者を巻き込み、策定を支援する視点が重要と考える。

(インパクト志向金融宣言・地域金融分科会 共同座長 金井メンバー)

- スタートアップと一口にいても特性や資本コストは多様であり、融資とエクイティの間にも多様な選択肢がある。現場の行員が事例集により他行の実践や葛藤を学び、具体的な行動を起こす契機となることを期待する。(株式会社 UNERI 河合メンバー)
- 担当者が手取りやすいよう、導入で意義やストーリーを示す構成が重要と考える。加えて、誰がどのように関与し意思決定に至ったか等の蓄積や、各行における事例のアーカイブ化を促す視点も有用と考える。また、各分野の専門性を踏まえつつ、ファイナンス手法を横断的に組み合わせる人材や機能をもつことで、事業者にとって相談しやすい体制を構築可能と考えられる。(ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺メンバー)
  - 資金の受け手との力学を踏まえ、資本コストの違いを意識しつつ適切に助言できる人材が増えることで、地域金融機関の価値向上に繋がると考える。(株式会社 UNERI 河合メンバー)
- 実際に事例集が活用され、地域課題の解決に挑む担い手の後押しとなる内容にすることが重要と考える。既存慣行や意思決定の壁を乗り越えるための具体的な手法として、資金の出し方の工夫や、関係者との協働を示す事例が役立つと思われる。そして事例集の活用を促進するためには、地域金融機関や自治体等が参画する対話の場を設けるべきであると考える。変革を担う人材の存在が鍵であり、イノベーター同士を繋ぐ場の創出も有効ではないか。(一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 小崎メンバー)
- 事例集は知識獲得の入口として有用である一方、実践段階では人材育成や外部専門性の活用等が必要。事例に実行上の課題克服の視点を盛り込むことが望ましい。あわせて、事例集の活用促進に向けては、ワーク型の場や現場事例の掘り起こしが重要と考える。(事業トラック 工藤副座長)
- 事例集がどのように活用されインパクト創出につながるか、という視点が重要である。意欲ある人材が孤立しているような地域の現実を踏まえ、地域単位での学習機会や金融機関間の連携を通じ、当事者意識を醸成する取組が必要と考える。(事業トラック 深尾座長)
- 事例集はカタログではなく、実践の起点となるベータ版と位置づけるべきと考える。事例集を活用しながら関係者の意見を反映し、ノウハウの蓄積やアーカイブ化を進めることで、実用的な内容へと進化させることが重要である。(金融トラック 宜保座)

長)

【閉会】

- 事例の収集・整理という初期目的は達成できたと評価する。一方、報告にとどめず今後の活用戦略が重要と考える。人材や体制に着目し、知見の共有や担い手を孤立させない仕組みづくりが必要である。(事業トラック 深尾座長)
- 具体的な成果物を得られた点は有意義であった。資金供給側のみならず需要側の視点も踏まえ、実行段階では具体案件を通じた協働機会の創出が重要と考える。次年度にむけ、実践的な連携を深めたい。(事業トラック 工藤副座長)
- 各地域における多様な取組を確認できた点に意義を感じる。今後は金融機関における投資機能の強化に伴い、事業創出力の向上が重要と考えられる。事例集を形骸化させず、実務で活用されるよう取り組んでいく。(金融トラック 金谷副座長)
- 第2期は事例ベースで実践的な議論を重ねることができた。成果物の事例集については関係者の意見を踏まえて取りまとめを進め、資金提供者や多様なファイナンス手法の最適な組み合わせを示す内容としたい。(金融庁／事務局 高岡室長)
- 本分科会は節目を迎えるが、成果物は新たな実践の出発点となる。今後は成果報告会の開催や多様な主体の参画を通じ、取組の深化と拡大を図りたい。第3期に向けた継続的な参加と協力をお願いする。(金融トラック 宜保座長)

以上